

# イノベーション創出に 資する施設整備

イノベーション創出  
に資する施設整備

学生の修学支援  
に資する施設整備

グローバル化に  
対応した施設整備

その他

## 語学教育イノベーションを支援する施設整備

### 基本情報

大学名：北海道教育大学  
建物名：マルチメディア国際語学センター  
工期：平成24年3月～平成24年8月  
構造・階数：RC・地上1階  
延床面積：569㎡  
事業費（設計費含む）：90,773千円

建物外観



ラーニングカフェから続く開放的な空間

### 整備の方向性

#### ○老朽・非効率施設を魅力的で新機能に対応可能な施設へ再生

・本学函館校は、公立はこだて未来大学と連携し、語学教育と語学学習の革新的改善（語学教育イノベーション）を進めるため、大学間の機能分化と各大学が担う分野の機能強化策の一つとしてマルチメディアを活用した言語学習システムを整えることとした。

導入されるシステムの機能をより効果的に発揮し、かつ魅力ある地域国際交流拠点の創出による学生の語学学習意欲の醸成・喚起と、自律的語学学習支援環境の提供を目標とした。

・当該施設は昭和43年に技術教育の実習施設として建設されたが、経年による老朽化の進行に加え、平成18年の課程再編により技術教育の需要が低下し、施設の使用効率が低下していた。マルチメディア国際語学センターの機能発揮のためには別棟として建設されている当該施設の改修整備が最適と考え、技術教育実習機能の規模見直しと移転整備を行い、当該施設をマルチメディア国際語学センターとして再生した。

### 計画・設計上のポイント

#### ○フレキシビリティの確保

・フロア全体をフリーアクセスフロアとし、情報システムや用途の変更へ対応可能とする。  
・冷暖房方式を個別運転可能な方式とし、使用時間の制約を受けないよう計画する。

#### ○魅力ある空間

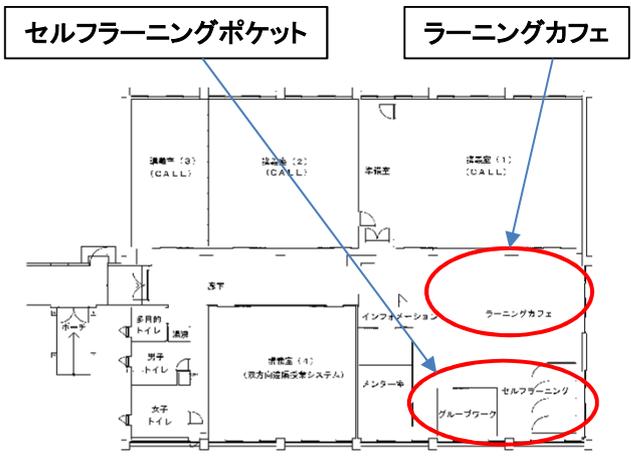
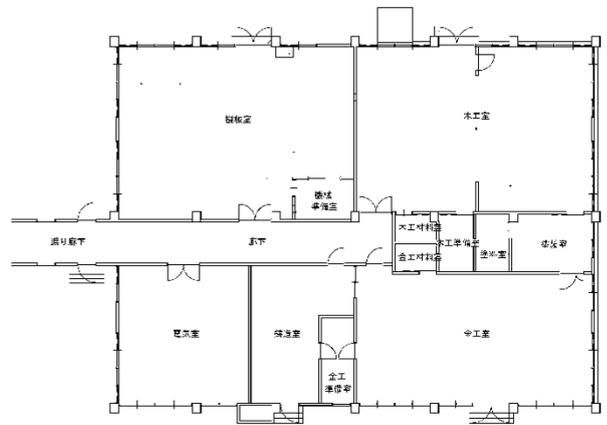
・大きな窓や、ガラスを多用したパーティションを使用し明るく開放感のある空間とする。  
・多様な使用者を考慮し、段差を最小限に抑え、多目的トイレの充実を図る。

#### ○省エネルギー等環境配慮

・省エネルギーを考慮した建物性能（断熱、気密、換気、各種器具、制御方式）を確保する。  
・必要性を考慮した冷暖房方式とエネルギーを選択する（パッケージエアコン、ガス焚FFストーブ）。  
・LCC対策（LED照明、ステンレス配管）を推進する。  
・既存仕上げ材の撤去量を抑制し、廃棄物量を削減する。

Before

After



1階平面図



南西面外観



中廊下



室内

## CALLシステム

- ・CALLシステムとは、「コンピューター支援外国語学習」(Computer Assisted Language Learning)の略で、これまで個別に提供されていた画像、音声、文字データを組み合わせたマルチメディア語学教材を提供し、先進的なシステムを利用して学習をサポートする。



## 双方向遠隔授業システム

- ・遠隔地と画像やデータを共有し授業を行い他大学等との連携を推進するためのシステムであり、国内外の大学等と双方向授業や対面式討論を行うなど、より実践的な語学教育が可能となる。



## セルフラーニングポケット

- ・本学学生や公立はこだて未来大学等の連携大学の学生が利用できる施設で、英語力の堪能な「メンター」が常駐し、英語学習を支援する。
- ・グレード別リーダーやCD・DVD等自習用の視聴覚教材をそろえ、インターネットの利用のほか、中国語、韓国語、ロシア語の教材等もそろえている。
- ・当スペース内では、原則日本語を禁止しており学生・教職員間での英会話等が盛んに行われている。



## ラーニングカフェ

- ・本学学生、公立はこだて未来大学のほか連携大学等の学生、附属学校の児童・生徒、一般市民などが留学生等と異文化コミュニケーションを図ると共に、市民向け公開講座やシンポジウムの開催など、広く異文化を体験することができるスペースの創出を目的に設置している。



## 施設整備の効果

## ○教育上の効果

- ・マルチメディア国際語学センターの整備により、キャンパス内に学生のための国際コミュニケーション交流の空間が創出され、従来の語学教育に留まらない自律的、効果的学習が実施可能な環境が整った。
- ・国際交流と語学自律学習が同一フロア内で実施可能なことに加え、語学力の堪能なメンターの配置や、ネイティブスピーカーがチューターとしてサポートする等の体制整備に加え、日本語使用不可エリアの設定によって、他言語によるコミュニケーション能力の向上を進めている。
- ・施設利用効果の実感や、語学学習の動機付けの一環として、平成25年からは他機関と協力して函館英語プレゼンテーションコンテストを実施しており、函館地域における高等教育機関の国際コミュニケーション能力向上に寄与している。
- ・平成27年9月には本学学生、附属学校の児童・生徒による英語ミュージカルを上演し、練習時から英語で指導を行うことで、コミュニケーション能力の向上を図った。
- ・海外留学希望者と正課での海外訪問数が増加し、他言語・異種文化への興味と積極的な交流姿勢が認められるようになった。

